

(別紙4-1)(ユニット1)

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170401269		
法人名	有限会社 ソラ		
事業所名	グループホーム笑顔の村五番地 もも(2階)		
所在地	札幌市手稲区富丘3条3丁目8番16号		
自己評価作成日	令和3年11月1日	評価結果市町村受理日	令和3年12月17日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0170401269-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	合同会社 mocal
所在地	札幌市中央区北5条西23丁目1-10-501
訪問調査日	令和3年11月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

令和3年7月より2ユニットとなり、新たな体制でスタートいたしました。「笑う」という人間が持つ素晴らしい力、「笑顔」が人を癒す力、そんな人を幸せにする「笑顔」をスローガンにしています。入居者様、職員、そしてホームを訪れてくださる地域の方等全員が「笑顔」になれる、名前の通り「笑顔の村」を作っていきたいと全職員で取り組んでいます。当ホームのリビングは入居者様と職員のコミュニケーションの場となっており、家庭的な雰囲気笑顔が溢れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

富丘の閑静な住宅街に位置し、バス停から徒歩5分、最寄りJRからも徒歩圏内の利便であり、家族や訪問客が来訪しやすい環境にあります。認知症高齢者グループホームに特化した運営を展開をしている法人の4番目の事業所として17年の実績を重ねています。今年7月に待望の2ユニットに増床しています。2階「もも」ユニットは今までの暮らしの継続、新設の1階「うめ」ユニットは順次利用者を受け入れ、それぞれの安心感のある暮らし作りに取り組んでいます。「笑顔」をキーワードに、利用者一人ひとりに心を寄せた見守りやケアが事業所の特筆の点であり、望んでいることや個性、状態の把握に熱心に取り組んでいます。3か月毎ごとの介護計画の作成では、利用者その人の全体像を理解し、自立支援に向けニーズを導き出しています。家事仕事や歩行訓練、音楽鑑賞、書写など、その人らしい日常が大切にされています。24時間連絡が可能な訪問診療、法人内看護師の週1回の訪問が行われ、看取りケアにも取り組んでいます。例年、地域や家族との交流が盛んですが、現在は感染症対策を図りつつ、事業所内での季節行事や、美味しく豊富なメニューで食事の充実にも努めています。新たな体制でのスタートに、運営者、管理者、職員が一体となって、笑顔こぼれる環境作りをしています。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者の	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9、10、19)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての家族と
		2 利用者の2/3くらい		<input type="radio"/>	2 家族の2/3くらい
		3 利用者の1/3くらい		<input type="radio"/>	3 家族の1/3くらい
		4 ほとんどつかんでいない		<input type="radio"/>	4 ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	<input type="radio"/>	1 毎日ある	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	<input type="radio"/>	1 ほぼ毎日のように
		2 数日に1回程度ある		<input type="radio"/>	2 数日に1回程度
		3 たまにある		<input type="radio"/>	3 たまに
		4 ほとんどない		<input type="radio"/>	4 ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1 大いに増えている
		2 利用者の2/3くらい		<input type="radio"/>	2 少しずつ増えている
		3 利用者の1/3くらい		<input type="radio"/>	3 あまり増えていない
		4 ほとんどいない		<input type="radio"/>	4 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11、12)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての職員が
		2 利用者の2/3くらい		<input type="radio"/>	2 職員の2/3くらい
		3 利用者の1/3くらい		<input type="radio"/>	3 職員の1/3くらい
		4 ほとんどいない		<input type="radio"/>	4 ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が
		2 利用者の2/3くらい		<input type="radio"/>	2 利用者の2/3くらい
		3 利用者の1/3くらい		<input type="radio"/>	3 利用者の1/3くらい
		4 ほとんどいない		<input type="radio"/>	4 ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての家族等が
		2 利用者の2/3くらい		<input type="radio"/>	2 家族等の2/3くらい
		3 利用者の1/3くらい		<input type="radio"/>	3 家族等の1/3くらい
		4 ほとんどいない		<input type="radio"/>	4 ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が			
		2 利用者の2/3くらい			
		3 利用者の1/3くらい			
		4 ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意識を全職員が理解し、申し送りやミーティング等で話し合い、確認し、ケアに取り組んでいる。	開設時から「笑顔」をキーワードに掲げた理念は職員間で共有し、地域に根付いた利用者の生活支援に取り組んでいます。日々のケアサービスで理念の目指す姿勢を問い、利用者一人ひとりが笑顔で過ごせることを追及しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	町内会の夏祭り、新年会等、毎年参加していましたが、新型コロナウイルスの影響により、交流できていない。	良好な地域関係を築き、交流も盛んに行われています。コロナ禍の現在は、回覧板で地域情報を得、運営推進会議のメンバーや近隣の方々とは、電話のやり取りや野菜を届けてくれるなど、変わらない関係が続いています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センターや、手稲区管理者会議等で情報交換を行い、地域の方の介護相談等に、役立てるよう取り組んでいる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、活動報告や利用者様の状況、ヒヤリハットの報告をしている。	会議は、隣接の系列事業所と合同で、地域包括支援センター職員、町内会長、民生委員、地域ボランティアなどの方々への参加により定期的に開催しています。感染症対策により、前年度から事業所内の会議とし、各メンバーと全家族には書面で報告しています。	以前から会議メンバーとは良好な関係を築いていますので、書面報告に対してメンバーの意見を聴取し、紙上での意見交換により、運営やサービスに生かす取り組みを期待します。また、一堂に会した会議開催の際には、家族の参加が得られるよう、その取り組みも期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナ禍では、zoom等での会議を行い、情報交換を行っている。	感染症対策により、行政主催の会議等は主にオンラインで行われています。各種情報の交換や書類等の提出、報告なども相互に滞りなく実施されています。感染症対策に関しても行政と密に連携しています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等の適正化の為の指針に基づき、3ヶ月に1回、職員研修を行っている。また、運営推進会議で、ヒヤリハットを報告し、今後の対策について話し合っている。	指針の下、全職員が適正化委員会委員となり3か月毎に委員会及び研修会を開催しています。身体拘束や虐待防止についての基本的内容は、繰り返し学んでいます。具体的理解はチェックシートで確認し、拘束や抑制、抑圧に対する感性を高めています。言葉がけについても、意識啓発を図っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングや申し送り等で、虐待について身体的な事だけでなく、スピーチロック等、言葉以外にも、注意を払い、具体例を話し合い、虐待防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者と職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度の理解に努めており、利用者が活用する為の話し合いや関係機関への橋渡しができるような体制が整っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約時には、利用者様ご家族に不安が生じないように、わかりやすく十分に説明し、質問、疑問がないか確認し、納得して頂けるよう取り組んでいる。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の訪問時等、何でも言って頂けるような雰囲気作りを心がけている。	現在は、主に電話で家族と関わり、毎月写真掲載の通信や職員手書きの手紙を郵送しています。面会は窓越しや玄関先とし、重度の利用者は動画の活用を試みるなど、家族の意向に沿いつつ、感染症対策を見極め対応しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	就業上の悩みや、勤務形態等、相談しやすい環境を作っている。個人面談等で、意見を聞く機会も作っている。	管理者は、日常的に職員の意見等を聞き取り、個人面談も随時行っています。運営者は事業所内の状況や職員の意見、提案を把握し、適切な指導と働きやすい環境作りに取り組んでいます。ユニット増床時には、広い職員休憩室と非常避難口を設置しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、常に笑顔で、職員に話しかけ、職員や家族の体調等も気にかけて、個々の努力にも気付き、手当等を支給している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ミーティングの際に独自マニュアルを基に内部研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	札幌市や民間で行われている連絡会では、悩みや緊急時の対応について意見交換や事例検討が行われ、ケアに活かしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の興味がある事や好みなど、日常の多くの場面で話を聞き、不安を軽減できるよう努め、会話が難しい場合には、ジェスチャー等で信頼関係を築けるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始前には、管理者と、計画作成担当者のご家族と十分な話し合いを持ち、不安や要望等、気軽に相談できる環境作りを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の状況やご家族の思い等を確認し、必要な支援ができるよう話し合い、サービス内容を職員全員が理解し、支援している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援を重視し、家事の一部を行っていただいたりしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院受診や面会、電話等でご本人の様子を知って頂き、それぞれの意見等を話しながら、共に支えられる関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの知人や友人等がいつでも訪問できるよう努めている。また、電話や手紙等で関係が途切れないよう支援している。	コロナ禍ですが、入居前からの親しい人達と窓越し面会や手紙、電話などで関わりが持てるよう努めています。馴染みの訪問理・美容は、12月からの再開予定です。職員は、アルバムや写真を片手に利用者に寄り添い、耳を傾けています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様が孤立しないように声を掛けたり、お互いに関わりを持てるようなレクリエーション等、工夫している。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時は、ご本人の状況に合わせた支援をしている。契約終了後も、それまでの関係を大切に、不安等、気軽に相談できるよう取り組んでいる。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の都合に合わせた支援を心掛け、これまでの生活のリズム等、把握できるよう努めている。	利用者の発する言葉はもとより、介助時や些細な環境刺激での反応、表情や仕草などでも本人の意向を理解しようとしています。自立支援を目指し、家族の情報も参考に、好きな事、したい事、苦手な時間帯など、総合的に検討しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始前には、ご本人や家族から生活習慣や趣味等を聞き取り、コレからの生活やケアプランに反映できるよう取り組んでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人との会話を多く取り、動き等に注意して観察し、できる限りご自身で動けるよう支援している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員や計画作成担当者は、思いや意見を十分に観察し、アセスメント、カンファレンス、モニタリングを行い、3ヶ月毎に作成している。	関わりの中から利用者と家族の意向、医療面の助言も得ています。介護計画作成のプロセスは、利用者担当と計画作成の担当職員を中心に、職員全員の視点で協議しています。本人の望む暮らしに近づけるよう、健康面や生活の安全、生き甲斐などを重視し、現状で必要な課題を計画に挙げてます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の状態、体調の変化や会話を事業所独自の介護記録や連絡ノートに記憶し、申し送り等で職員間の情報共有を徹底し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問診療や看護師による健康チェック、緊急時の往診、その他状況に応じて通院や送迎等、個別に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問診療や看護師による健康チェック、緊急時の往診、その他状況に応じて通院や送迎等、個別に対応している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診療と、月4回の看護師による健康チェックの他にも、利用者の体調の変化や、ご家族、ご本人の希望等に応じ、健康管理全般について対応している。	利用者と家族の納得の下に、医療機関の受診を支援しています。利用者全員が、夜間でも相談可能な協力医療機関の訪問診療を受けられます。週1回法人看護師による健康チェックも行われています。専門科受診は家族を基本に、必要時に職員が同行しています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師による健康チェックを受け、日頃の体調管理に努めている。体調の変化は全て報告し、受診の必要性の判断や指示をもらい適切な医療が受けられるようにする。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した医療機関、協力医療機関、ご家族と連絡を取り合い、退院前には医療機関と連携を取り、退院後の指示を得ている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応指針、意向確認書を作成し、契約の段階からご家族に説明、記入して頂いている。必要に応じて協力医療機関と連携し繰り返し話し合いをし、方針を共有している。	重度化や終末期についての対応は、入居時や状態変化時に話し合い、利用者や家族の意向を確認しています。協力医療機関と連携し、多くの看取りを支援しています。利用者、家族の希望を受けとめ、職員間で方針の共有と最善のケアを模索しながら、本人に寄り添った支援で臨んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応について、マニュアルを整備しており、ミーティング等で研修している。玄関にはAEDを設置しており、避難訓練終了後には、消防職員より、講習を受け、職員がいつでも使えるようになっている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を行い、夜間帯、日中、また、火災、水害等の避難方法を見て頂き、感想、意見を頂いている。	昼・夜を想定した火災時避難訓練を実施し、利用者も参加しています。新設した2階非常避難口への誘導訓練を行い、確認した足元の不具合については、対策の検討など次回訓練につなげています。備蓄品の確保や停電対策を講じ、防災面の課題について一つひとつ着実に取り組んでいます。	今年度2回目の訓練は、冬季間に設定していますが、地震など自然災害を加えた実践的訓練の取り組みを期待します。また入浴時など様々な生活場面を想定した訓練の実施も期待します。

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使い、声のトーン、態度等に注意し、一人一人に合った声掛け等の対応をしている。	申し送りの際にはイニシャルを使用し、居室訪問の際は、ノックのあと直ぐにドアを開けないなど、生活上の些細な場面も当然のマナーとして確認し合っています。接遇研修に参加し、言葉使いにも十分注意しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせた選択肢を準備してそこから決めて頂いたり、できるだけご本人が決めるよう対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	体調や気分等を確認し、自室で休んで頂いたり、運動やレクリエーション等の希望を聞いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	頭髪や服装の乱れは、その都度直し、髭剃りができるよう支援している。また服を選んで頂いたり、髪を結ぶ等している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者の希望を取り入れて作成したり、食事はその人の状態に合わせて小さく切ったり、ペースト状にし、提供している。また、食器拭き、お盆拭きを日課とされている利用者も多い。	一汁三菜の献立は職員が作成し、嗜好や栄養バランスを考慮しています。調理職員を配置し、利用者と共に食事を作っています。入居直後の利用者には、落ち着いて食事が摂れる環境に配慮しています。リクエストで赤飯や焼き鳥丼、目先を変えてバイキングやお汁粉作りなど、皆の楽しみとなる食事を工夫しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は記録に記入しており、摂取状況を確認しながら、摂取しやすい物に変えたり、声かけをし、バランスの良い栄養や水分摂取を支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアを毎回行っている。一人一人に合わせ、介助等行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	できる限りトイレで排泄できるよう支援している。1人で移動が難しい方も声を掛けて頂いたり、職員からの声掛けで誘導している。	トイレ排泄を基本に、二人で介助する場合もあります。時間誘導やその人なりのサインを察して対応しています。重度の人以外は、できる事をしてもらい、排泄が自立している人、布下着にパット使用など、個別に快適に気持ち良く過ごせるようにしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤の調整だけでなく、食事や運動で自然な排便になるよう取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	利用者の好みの温度、時間で入浴できるよう支援し、体調に合わせて全身清拭、足浴等も行っている。	入浴は週2回程、入浴好きの人には週3、4回支援する場合があります。希望に沿って同性介助や温度を調整し、拒む人にはその人のタイミングで上手に誘導しています。清拭やシャワー浴も取り入れ、負担の少ない方法で保清しています。保湿入浴剤を使用し、利用者の昔話もゆっくり傾聴する時間になっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や気分に合わせて自室で休んで頂いたり、夜間は好みの明るさに調節している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬に変化がある際は、申し送りや連絡ノートに記入し、職員全員が把握できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭き、洗濯たたみ等、喜んで引き受けて頂いたり、一緒に行いながら、教えて頂いたりし、役割を楽しみにされている利用者様が多い。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、洗濯物を干したり、近所へ散歩等出かけられるよう支援している。	例年は、近郊の公園散策、ショッピングモールでの買い物、個別の要望に応え募参に付き添うなど、様々な外出に対応しています。外出自粛の現在は、プランターの水遣りや洗濯物干し、近隣の散歩程度ですが、機能低下予防策に体操や歩行訓練を取り入れています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	近くのお店へ一緒に行き、欲しい物を自分で見て選択し、支払いができるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りや電話が気軽にできるよう配慮している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングに、利用者が制作した季節の壁飾り等を展示したり、窓からの景色を楽しめるような座席にし、季節を感じて頂ける環境作りを行っている。	リビングからの眺めがよく、利用者は日の出や四季の移ろいに心とむ時間を過ごしています。季節飾りや利用者との共同作品が掲示され、温かみある設えです。歩行訓練がしやすいよう、廊下は装飾を控えています。温・湿度は適切に調整し、換気の際も利用者夫々の刺激に配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファに座り、ゆっくりテレビを見たり、他の利用者様や、職員と会話されたり、運動をしたりされている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族と本人と相談し、使い慣れた家具等を使用して頂いたり、家族の写真、人形等を飾り、家と同じようにくつろいで頂けるよう支援している。	入居時には、自宅で使用していた物や愛着のある品々の持ち込みを促しています。家具類やテレビ、家族写真、音楽好きの方はラジカセやDVD、使い慣れたパソコン等の持参も呼び掛けています。その人らしい環境つくりと、状態に即した動線の確保を大切にしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーで、トイレ内、廊下には手すりが設置してあり安全に移動でき、自立した生活が遅れるよう工夫している。		